

かわらばん妻入り

【事務局】新潟県三島郡出雲崎町大字米田281番地1 出雲崎町教育委員会
 TEL) 0258・78・2250 FAX) 0258・78・4559
 E-mail) shakyou-k@town.izumozaki.niigata.jp

新コラム

50回の連載が終了したコラム「妻入りの街」に替わり、今回から協議会の副会長でもある磯部友記雄さんによる「雲浦歴史散歩」と題した連載コラムを掲載いたします。今後とも、同コーナーをよろしく願いたします。

うんぽ

雲浦歴史散歩(1)

磯部 友記雄

平成九年八月五日発行の「出雲崎妻入りの街並景観推進協議会」の機関誌で「かわらばん妻入り」に、連

続五十回に及ぶ出雲崎の歴史・文化に関するコラム「妻入りの街」を休むことなく執筆をいただきました。磯野猛様に敬意と感謝を申し上げます。

磯野さんは、約三・六キロメートルにも及ぶ妻入りの街並の保存運動に積極的に取り組まれました。そしてコラムを通して江戸時代から現代まで伝承されてきた事実を後世に伝えてゆくことの大切さと、その保存の重要性を私達に教えてくださいました。

そこでこれまでのコラムを一冊に集約し、町民の皆様から読んでいただき、郷土の歴史を大切に守り発展させてもらいたいと願っております。

ます。

さて、磯野さんのコラム連載五十回を区切りとし、執筆を私が引受けることとなりました。磯野さんの博学多才には及びませんが、これまで出雲崎で発刊されております「北越史料出雲崎」「出雲崎編年史」「出雲崎の史的趣味」「出雲崎町史」「小木の城山」等をベースにして、多くの先輩から私が聴いたり教えてもらったことなどを書いてゆこうと思っております。

これまで磯野さんが書いてこられたものを次のように分類してみました。

- 1 天領出雲崎の成立
- 2 妻入りの街並について
- 3 代官所と出雲崎
- 4 出雲崎を訪れた文人達
- 5 出雲崎の文化人
- 6 出雲崎の産業
- 7 良寛さんについて
- 8 佐藤耐雪翁について
- 9 出雲崎の旧家について
- 10 出雲崎の民謡

等その内容は驚くほど多岐にわたっております。私にはこれらの内容以上の事を書く自信はありませんが、なんとかこれの内容と重複しないよう努めてゆきたいと思っております。

さて、これからのコラムのタイトルについては「雲浦歴史散歩」とすることにしました。

雲浦とは、出雲崎の古称です。良寛記念館裏に建立されている歌碑に

沖^{おき}つ風いたくなく吹きそ雲^{うら}の浦は

我がたらちねの奥^{おく}つ城^{しろ}処

が刻まれております。この歌の内容は「沖から吹いてくる風よ、どうかそんなに強く吹かないでくれ。ここ（山本家の墓地のある処）、雲の浦（出雲崎の古称）の虎岸ヶ丘（墓のある丘の呼称）は、私の母さんのお墓が建っている処だから」と、良寛さんの歌にも「雲の浦＝雲浦」と詠まれております。また、旧出雲崎

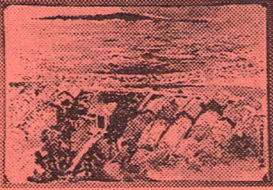
小学校の児童会の名称も「雲浦会」と言っておりました。この様に昔から出雲崎のことを雲浦と言っていた時代があったのです。

そこで磯野さんの「妻入りの街」から、名称を「雲浦歴史散歩」に変更しました。磯野さんの記事とダブらないようにしたいとは思っておりますが、歴史に対する知識や認識不足のため不安ですが何とか役目を果たしてゆきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

出雲崎という地名は、いつ頃から言われたり、文書に残されていたのでしょうか。

古事記や大日本地名辞書等には、出雲族系の移動に伴って、地名がついたのではないかと、石井神社遷座年記略伝・多聞寺縁起書等から出雲崎の地名を読み解きたいと思っております。

1987年 田中博之作



冊子「妻入りの街」完成間近!!

前回発行の第51号でもご案内いたしました、50回の連載が終了した磯野猛さん（住吉町）執筆のコラム「妻入りの街」の記念誌発行がいよいよ間近に迫ってきました。

当協会では、2月20日頃には町内や関係者の皆さまに販売の案内を配付し、3月中にはお手元にお届け出来るよう、準備を進めていきます。

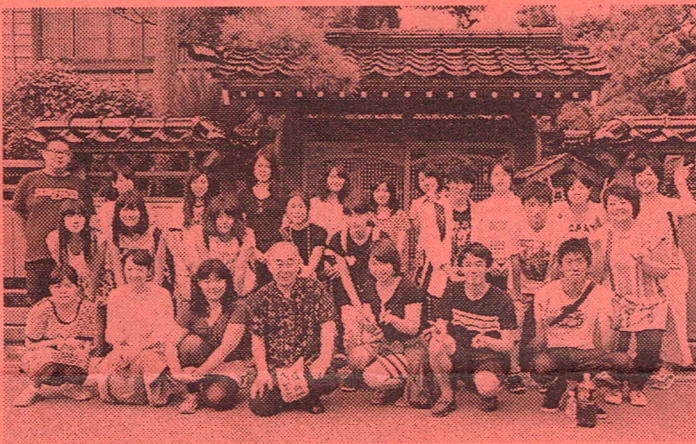
江戸時代から現代まで、出雲崎の政治、経済、天領等、その時代に登場した様々な著名人の歴史が満載されております。

この機会にぜひ一度、出雲崎の歴史に触れ、郷土を想い、多くの皆さまから後世に伝承していただきたいと思っております。

詳しくは、事務局（☎0258-7812250）までご連絡ください。乞うご期待!!

書道ゼミ合宿

平成26年8月上旬、二松学舎大学書道ゼミの学生と高校生による合宿が行われました。今回は25名の学生が当町を訪れ、当協議会では、そのうち3名の方から、妻入りの街並や出雲崎町を訪れての感想をお伺いしました。



出雲崎町での交流

二松学舎大学4年

安田 康二朗さん

前回に引き続き今回も北国街道の街並みに作品を置かせてもらい、青空書道展を行わせて頂きました。今年は台風の影響で断続的な雨となり作品を外に出しておくことは出来なかつたので町民の方々の家の軒先や敷地の一部をお借りして作品を置かせて頂きました。

お願いをすると作品を置く事に快く了承して下さいました。また作品が雨で濡れないように考えて下さり作品をどうすれば見やすくなるかも考えて置いて下さいました。本当に出雲崎町の皆さんは親切に対応して下さいました。展示してある作品もひとつひとつ丁寧に見て下さって感想を聞かせて頂き、大変勉強になりました。

この様な心温かい町で合宿を行えて交流が出来てとても良い経験が出来ました。また本当に出雲崎

町で合宿が行えて良かったと感じています。

最後に、町民の皆様と教育委員会の皆様からの御支援を頂き合宿が行えました。本当にありがとうございます。

二松学舎大学4年

古川 侑加さん

前回に引き続き二回目の出雲崎でしたが、相も変わらず町の皆様のあたたかな心遣いにもうひとつの故郷が出来たような気さえしました。そんな懐かしさと人のあたたかさを感じながら、妻入り会館での作品制作に励みました。書いているそばから、これを書いて、とお願ひされたり、自分の書いた作品を貰っていただけたりする事は嬉しい限りです。この気持ちも出雲崎ならではないかと粋々と感じています。また、前回よりも広い範囲で行うことが出来た青空書道展ですが、雨の対策はもちろん

の事、私たちの作品を丁寧に扱っていただきました。この合宿のひとつの目玉企画である青空書道展で町ににぎわいや彩りを加えることが出来ていたら幸いです。この歴史ある町で合宿を行えた事に感謝しつつ、またこの町に訪れられるよう日々精進していきたいと思っています。

二松学舎大学4年

田邊 泉さん

源川ゼミの出雲崎合宿では朝の早い時間に散歩に出かけるのが私の楽しみの一つです。

前回はその最中に妻入り会館の向かいの稲荷で町の方と遭遇しました。その方は町で起こった出来事や昔の様子などのお話を聞かせてくださり、しばらく一緒に歩き、後には妻入り屋敷に上げていただきました。

今回の朝の散歩は悪天候のためか町の方とはあまりお会いしませ

んでしたが、獄門跡までの道を歩くことができました。

出雲崎の町の雰囲気は私の地元とは全く違います。山も海も近く、古くて日本的な建物が並ぶ町にはわくわくしながら散歩に出るのです。そこで出合い土地の話を聞かせてくださる町の方には密かに驚き懂れました。あんなふうに町を大切に思い誇りに感じている方がいるからこそ、出雲崎の町は歴史を積み重ねた魅力に溢れているのかなと思います。願わくはまた近い将来往訪したいものです。



先進地視察

11月15日(土)、街並保存活動の先進地視察として、富山県高岡市金屋町を会員15名参加のなか、視察を行いました。

金屋町は、高岡市の中心市街地に近く、世帯数約190世帯、人口は約580人の地区です。1609年(慶長16年)、加賀藩の藩主・前田利長が高岡城を築城、町の繁栄を図るため、鋳物師を現在の高岡市戸出西金屋から金屋町に移住させたため、高岡銅器産業の中心となっています。

また、現在も千本格子造り(地元では「さまのこ」と言う)の街並みが残り、石畳の道と相まって観光地となっています。2012年には、国の重要伝統的建造物群保存地区として選定されました。

今回の視察では、その金屋町の活性化に取り組まれている「金屋町まちづくり協議会」の会長、般若陽子さんをはじめ3名の役員の

方からお話をお聞きし、街並みを案内していただきました。

この金屋町も、約30年前から国の重要伝統的建造物群保存地区への指定の話しがでていたが、反対意見も多数あり、実際に動き始めてから、指定までに10年もの時間がかかったそうです。

指定されてからは、国の補助金を使って住宅の外壁の修景や石畳み舗装の補修等を実施し、観光客も増加傾向にあるそうです。その他にも町の活性化のため、伝統的な祭りや石畳をイメージした菓子の開発等に取り組んでいました。

視察を終え、住民同士のコミュニケーションを大切にし、

「自分達の手で町を守っていくんだ」という意気込みと、何よりも町の活力を感じました。



お知らせ

「天神さま街道」開催中!!

今年で5回目を迎える「天神さま街道」。毎年、出雲崎・柏崎・刈羽の3市町村において、地域の皆さまがお持ちの様々な「天神さま（学問の神様・菅原道具公）」をお借りし、展示しています。

「天神さま」は、全国各地で信仰されていますが、出雲崎町においても昭和30年代までは石井町の多門寺様において、毎年1月25日に「天神さまのお練り」が行われていました。

町内での「天神さま」の展示会場及び展示期間は下記のとおりとなっておりますので、興味をお持ちの方はぜひ一度ご覧になってください。

また「天神さま」をお持ちの方で、お貸していただける方がいらっしやいましたら、教育委員会（☎

78-22250）までご連絡ください。



「天神さま」の像
(妻入り会館展示)

展示会場	展示期間	休日
天領の里時代館	1月18(日)	2/4(水)
良寛記念館	～3月1日(日)	毎週水曜日
大黒屋菓舗	1月5(月)	無 休
北国街道 妻入り会館	～節分ころ	
	1月26日(日)	
	～2月25日(火)	

あとがき

今回は、病院の先生、医師について書き留めたいと思います。

ある大きな病院の医師が、ガン治療で通院している患者さんに対して「あなたの病気は一生治りません」と、言ったそうです。それを聞いた患者さんは、愕然として死の宣告を受けたように思ったそうです。皆様どう思いますか？

医師は病気を治すだけではなく、患者さんの心のケアもやらなければならぬと思います。

僕は思うに、治らないのではなく、その医師が治せないのではなく、しょうか。また、その病院では治せないのではないのでしょうか。そのような医師は、ほとんどいません。この医師一人だけかもしれません。もし皆様が病院に行ったら、治せるようなことを言われたら、治せる医師と替わってくださいと言ってみてはどうでしょうか。

石井町 納谷 稔